

静岡県漁業協同組合連合会
1079 静岡市追手町 9-18
16.2.6 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 青年漁業士・指導漁業士13名が新たに認定される

県では、去る2月2日静岡市内のホテルに石川県知事を迎え地域漁業、農業を担う中核的活動を行っている青年漁業士、青年農業士及び後継者育成等に尽力している指導漁業士、農業経営士、特産品づくりなどに活躍する農産漁村ときめき女性と合わせて60名の認定式が水産関係者及び農業関係団体の代表者多数出席する中執り行われました。

漁業関係では次の13名の方が認定され、今後の活躍が期待されます。

青年漁業士(6名)：鈴木健司(松崎町) 佐藤和宏(仁科浜) 山田雅志(同) 芹沢潤二(沼津我入道) 杉山喜規(静岡) 仁藤伸次(焼津) 指導漁業士(7名)：森明弘(下田市) 山本安浩(同) 高嶋千春(沼津我入道) 望月宏一(由比港) 原 剛(同) 平松修(中遠養鰻) 和久田米喜(浜名)

2. 平成15年の海難発生状況(速報)を発表

海上保安庁は1月13日、平成15年の「海難及び人身事故の発生、救助状況」(速報)を発表しました。それによると、昨年の海難船舶隻数は、2,723隻で平成14年に比べ30隻増加し、死亡・行方不明者数は153人で12人減少しました。海難が最も多いのはプレジャーボートで943隻、次いで漁船が924隻となり、ともに平成14年に比べ増加しました。また、死亡・行方不明者数は漁船が最も多く平成14年に比べ6人増加したほか、ライフジャケット着用のケースは未着用より生存率が高いことや、海の緊急通報電話「118」への通報の7割を携帯電話が占めることなどが明らかになりました。

また、下田海上保安部管内での海難船舶隻数は、44隻で平成14年に比べ14隻減少し、人身事故41人で26人減少と過去5年間で最悪だった前年をいずれも下回りました。

船舶海難は衝突が24隻と最も多く、次いで機関故障7隻、乗り上げ5隻と続き、原因は見張り不十分や操船不適切など人為的要因が目立ち、船種別ではプレジャーボート17隻、貨物船14隻、漁船11隻の順となりました。また、船舶海難と人身事故に伴う死亡・行方不明19名で、これらの人身事故のうちライフジャケットの着用で防げる事例も多く、同保安部ではライフジャケットの常時着用の推進運動を展開していきます。

3. 密漁防止対策連絡会議開催される

- JF全漁連 -

JF全漁連密漁防止対策連絡協議会では、去る1月28日に「密漁防止対策連絡会議」(平成15年度漁場秩序管理モデル化推進事業)を、各都道府県の担当者などを招集して開催しました。冒頭、JF全漁連宮原常務より、密漁は悪質化・広域化し問題が深刻化・定着化してきて、抜本的な対策が必要と、あいさつが述べられました。

会議では、各省庁からの報告として水産庁沿岸沖合課沿岸調整班調査指導根元係長より、平成14年の水産動植物の採捕にかかる漁業関係法令違反などの状況概要(速報値)について、海上保安庁警備救難部刑事課捜査大江係長より、政府の密漁撲滅対策に係る施策について、それぞれ報告がありました。また、生活経済対策室宮坂課長補佐警察庁警

視より、最近の密漁者の組織化・巧妙化などについて説明が行われました。

続いて、取り組み報告では、本県水産試験場伊豆分場長谷川主任研究員、東京海洋大学山川助教授、近畿大学鳥居研究員、漁村振興研究所田中所長、およびJF全漁連漁政部によりアワビの密漁防止を中心とした5テーマについて報告されました。

4. 人気力士高見盛関で密漁防止ポスターを作成

今年の「密漁防止キャンペーンポスター」(JF全漁連製作)のイメージキャラクターに現在人気急騰中の高見盛関の起用が決まり、所属する東関部屋で写真撮影が行われました。今年は、高見盛関の相撲に対するひたむきさと気合が密漁防止に対する心構えに通ずるとして白羽の矢が立ち、関取もこれを快諾しポスター製作が実現しました。

東関部屋の土俵上で行われた写真撮影では、緊張した空気が漂う中、迫力あるショットが数多く撮影されました。当ポスターは1万部作成され、全国のJFをはじめ警察、海上保安部、県庁などに配布され、全国の浜で高見盛関が目を光らせます。

5. 平成15年度第2回駿河湾深層水総合利用検討会開催

県水産振興室では、去る2月3日にアトレ焼津(焼津市)で平成15年度第2回駿河湾深層水総合利用検討会を開催しました。平成14年11月に有料給水を開始して以来、平成15年5月には焼津市による脱塩水と濃縮水の供給が始まり、平成15年4月から12月までの総給水量は6万トに達しました。

また、駿河湾深層水利用者協議会による深層水ブランドマークの承認件数も241件となり、商品カタログやホームページの作成を通じてさらにPRを図ることが報告されました。さらに、県が整備を進めていた「駿河湾深層水水産利用施設」の竣工が3月24日に予定され、深層水を利用した「深海性甲殻類養成技術研究」や「免疫効果がある微細藻類の研究」などの進展が期待されました。一方、焼津市からは深層水に関する知識・情報を市民、児童・生徒に発信する「駿河湾深層水利用促進交流施設(深層水ミュージアム)」が平成16年度当初に開館することが報告されました。

6. 第36回水産加工技術セミナー開催のお知らせ

県では、新技術の開発・導入による新製品の開発、消費者志向に基づく品質の高度化・安全性の確保あるいは廃棄物の有効利用などを推進するため、第36回水産加工技術セミナーを来る2月24日(火)13時30分から県水産試験場において開催しますので、多数ご参加下さるようご案内いたします。講演：「食品表示制度について」 県県民生活室 室長 松浦孝治氏 「栄養素としての水産油脂」 東北大学大学院農学研究科 助教授 山口敏康氏 「異物混入事例とその原因について」 生活協同組合連合会常務スタッフ 佐藤邦裕氏 参加費：無料 参加申込期限：平成16年2月20日(金) 定員80名になり次第締切 申込・問合せ先：県水産試験場加工研究室 TEL 054-627-1815 又は 627-1818 Fax 054-629-7350 又は627-3084

7. 諸会議日程(2月10日(火)~2月23日(月))

- 既報分省略 -

2月21日(土) 県おさかな普及協議会 = お魚料理教室 (あざれあ)

2月22日(日) 県漁連 = コープフェスタINぬまづ (キラメッセぬまづ)

2月23日(月) 県養鰻協会 = 理事会 (県水産会館)